

総合評価基準

「放射線画像サーバー、放射線情報システム・レポートシステム」

日本郵政株式会社
東京通信病院

本評価基準については、「放射線画像サーバー、放射線情報システム・レポートシステム」の仕様書に基づいて定めたものであり、評価に当たっては次により行います。

なお、落札者が入札者とともに提出した提案書の内容は、仕様書等と同様にすべて納入検査等の対象とします。

1 必須要件

提案書は、仕様書に定める要求要件をすべて満たす必要があります。

なお、基礎点は1706点とします。

ただし、一つでも仕様書に定める要求要件を満たしていない場合は、その後の評価は行わず、当該提案書を不合格とさせていただきます。

2 必須以外の要件

仕様書に定める要求要件を超える部分について、更に有効な提案が行われた場合は、その内容に応じて最高970点の点数を与えます。

なお、評価する提案内容及び配点については、「総合評価基準表」（別紙）のとおりとします。

絶対的評価結果	評価観点の重要度	
	一般項目（B）	
要件を満たしている	40	
要件を満たしていない	0	

相対的評価結果	評価観点の重要度	
	重要項目	一般項目
	A	C
相対的に優れている	50	30
相対的にやや優れている	40	24
標準である	30	18
相対的にやや劣っている	20	12
相対的に劣っている	10	6

総合評価基準表

1 必須要件

評価項目	評価観点	評価
仕様書に定める項目	仕様書に定めるすべての要件を満足する具体的な提案がなされていること。納入物については、その品名・数量が明記されていること。	合格 又は 不合格

(合格した場合は基礎点 1706 点を付与する。) …① (必須要件の点数)

2 必須以外の要件

評価項目	評価観点	重要度	配点
絶対評価項目			
提案する機器性能及び構成	1-1-7 過去の画像の移行、今後発生する 7 年間の DICOM 画像を保存できる容量を実装すること。また、既存 PACS (富士フイルム社 SYNAPSE) 内に保管されている画像データの移行費及びモダリティ接続費も含めること。 (サーバ容量が 140TB 以上実装可能な場合には加点として評価する)	B	40
	1-1-19 本院電子カルテシステムと連携すること (RIS 端末に電子カルテを相乗りさせる事が可能であれば加点として評価する)	B	40
	1-1-21 国内 500 床以上の病院にて、確固たるノウハウを有したベンダーであること (完全フィルムレス運用実績 (院内全体対象) が 70 施設以上ある場合には加点として評価する)	B	40
	1-9-5 階調プリセットはユーザおよびモダリティごとに最大 9 個までユーザが設定できること。(10 個以上設定可能な場合には加点として評価する)	B	40
	1-14-3 シリーズ間の各連携設定をユーザごとに ON/OFF できること。 (連携設定を電子カルテのログイン ID ごとにデフォルト設定が可能であれば加点として評価する)	B	40
	2-2-3 医事課に F-Report ライセンスとともに端末 1 台付与すること。 (電子カルテから読影状況等を直接閲覧することが可能であれば加点として評価する)	B	40
	2-10-8 重要レポートの場合、重要フラグのない通常レポートとは区別して未読状態をアイコン表示できる機能を有すること。(重要度『高』『中』など色分けで設定可能な場合には加点として評価する)	B	40

評価項目	評価観点	重要度	配点
	2-13-1 既読管理対象のデータを検索してリストに表示することができる既読ワークリスト機能を有すること。検索条件として、データの種別、未読/既読状態、作成日、作成日からの日数、検査種、患者 ID、患者名、検査日、レポート作成者、既読者、既読日時などの条件を指定できる機能を有すること。 （重要度中程度のレポートを《所見》《診断》から『癌』『悪性』など特定のキーワードを指定しレポートをリスト化が可能な場合には加点として評価する。） （《診断》において「癌術後、再発なし」など重要度なしの検索除けが可能な場合には加点として評価する）	<i>B</i>	40 40
	5-19-32 検査実施完了時に、検査完了時の確認ミスを防ぐための検査完了時チェックを行えること。 （検査実施完了後に保留に戻し検査を再開可能な場合には加点として評価する）	<i>B</i>	40
	5-20-4 核医学装置で吸収補正 CT を実施した場合、RRDSR その他の方法で線量管理ができる機能を有すること。 （MPPS でも受け取り可能な場合には加点として評価する）	<i>B</i>	40
	14-2-2 年間を通じて 24 時間体制で常時現場にサービスマンを派遣できること。 （1 時間以内に訪問可能な体制を保持している場合には加点として評価する）	<i>B</i>	40
「必須以外の要件」絶対評価点数 小計（満点の場合）		…②	480点

評価項目	評価観点	重要度	配点
相対評価項目			
スケジュール管理	調達仕様書に定める内容ごとに作業項目・納入内容・入れ替えに伴う休止期間・納入完了時期を網羅したスケジュールが最適かつ具体的に記述されているかを評価する。	A	50
プロジェクト管理	仕様の実現のために最適な手法および体制（役割・要員・責任体制・後方支援等）に関して具体的な提案が記述されているかを評価する。	A	50
リスク管理	想定されるリスクに関して、具体的な検討がなされ、その対策が記述されているかを評価する。	A	50
品質管理	成果物の品質を確保するための品質の管理基準を定量的に明らかにし、具体的な方式・手順・検証方法等が具体的に提案されているかを評価する。	A	50
セキュリティ管理	ウイルス対策・病院情報・個人情報保護等のセキュリティ対策、事故発生時の対応に関して、最適かつ有効な提案をされているかを評価する。	A	50
性能の検証	仕様の実現のために要求される能力を検証するために信頼性の高い検証方法が提案されているかを評価する。	A	50
ランニングコスト	業務の継続性の観点から、納入後の保守、消耗品の購入及び改修等におけるコストの軽減に関して、最適かつ有効な提案をされているかを評価する。	A	50
保守	納入物の保守・問い合わせに関する体制（対応時間・配置要員、保有資格・実務経験等）が最適かつ具体的な提案が記述されているかを評価する。	A	50
人権尊重の取組み	人権尊重に関する方針やガイドラインを策定してホームページ等で公表し、かつ、有効な取組みを行っているか。	C	30
その他	バリアフリー環境整備、地域貢献又は環境保護などのCSR取組み状況	C	30
	上記のほかに、特に本件について有用となる提案を評価する。	C	30
「必須以外の要件」相対評価点数 小計（満点の場合） …③		490点	
「必須以外の要件」（＝絶対評価+相対評価）点数（満点の場合） …④＝②+③		970点	
「必須要件」（基礎点）と「必須以外の要件」の合計点数 …①+④		2676点	